

学年	学科	学籍番号	氏名
----	----	------	----

1、洛中洛外図屏風の概要について

洛中洛外図屏風の初出と思われる記録は、【 a 】実隆の日記『実隆公記』永正三年（西暦【 b 】06年）12月12日条に、越前朝倉氏の依頼によって【 c 】光信が「【 d 】に京中を画く」とあるものである。【 d 】とは屏風の数え方で、縦長のパネルを連続させた（洛中洛外図には【 e 】が多い）一隻を一對にしたものである。今日に伝わる洛中洛外図屏風の原本としては、佐倉市の国立歴史民俗博物館に所蔵される【 f 】本（町田本）が最も古く、上杉本はそれに次ぐもので、【 g 】が永禄八年（西暦【 b 】65年）に完成させた。これよりも降る時期の制作と考えられているものに歴博乙本（高橋本）があり、【 f 】本と上杉本との間に位置するものとして東京国立博物館の模本（東博模本）も重要である。このほか、光円寺本などの扇面・画帖形式の小画面洛中図のセットもある。これら戦国時代に制作された洛中洛外図屏風を初期洛中洛外図屏風といいならわしている。

洛中洛外図屏風全体としては、江戸時代に入ってから制作されたものが多く残っている。たいていの作品は、右隻に【 h 】と方広寺の大仏殿（豊臣秀頼が再建）を、左隻に【 j 】（1602年に【 i 】家康が築く）を中心的なモチーフとして描いている。これらを第二定型の洛中洛外図屏風といいならわしている。このほか、東京国立博物館に所蔵される舟木本、高津古文化会館所蔵の高津本など個性的な作品がある。

- 【 a 】 _____ 【 b 】 _____ : 数字二桁 【 c 】 _____
 【 d 】 _____ 【 e 】 _____ 【 f 】 _____
 【 g 】 _____ 【 h 】 _____ 【 i 】 _____
 【 j 】 _____

2、上杉本洛中洛外図屏風について

上杉本洛中洛外図屏風は、現在、上杉氏の遺品を引き継いだ【 k 】市の上杉博物館に所蔵されている。もともと【 l 】信長から上杉謙信に贈られたものと考えられるが、景勝の時代に上杉氏が【 k 】へ移封されたためこの地に伝わっている。

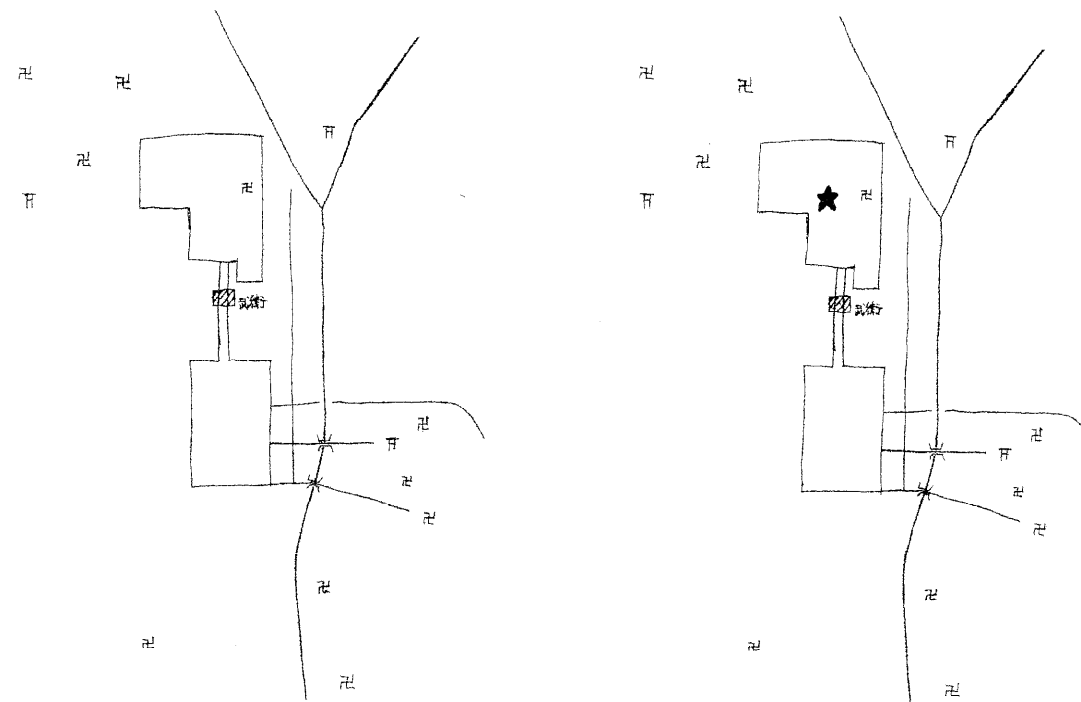
【 e 】【 d 】の惣金地の屏風に都の内外と四季とを描いている。全体にたなびく金雲は、装飾的な効果を高め、覗き込むような視覚を与えると同時に、ひとまとまりの画面・視野をかたちづくり、それぞれのまとまりは小画面の洛中図のようにになっている。画面手前側（下部）約三分の二には規則的な街路を骨格とした京の町を、上方三分の一には遠方の山を背景に神社仏閣を配置している。一隻を対にした形式は、当時の双子状の構造をしていた京都の実態とも対応しており、【 m 】の町屋と鴨川をはさんで広がる【 n 】山の地域を描いた右隻【 m 】隻と、【 o 】と【 p 】山・【 q 】山の一带を描く左隻【 o 】隻とで構成される。屏風のなかの方位は、季節とも対応しており、おおよそ、右隻には【 r 】を左隻には【 s 】を描いている。例えば、右隻第三・四扇に描かれている【 t 】には、五月五日の行事であったと想像される相撲の様子が添えられ、地理関係と季節感とがたくみに重ねあわされている。

- 【 k 】 _____ 【 l 】 _____ 【 m 】 _____
 【 n 】 _____ 【 o 】 _____ 【 p 】 _____
 【 q 】 _____ 【 r 】 _____ から _____ 【 s 】 _____ から _____
 【 t 】 _____

3、フロイスが見た都・一戦国大名が見た都

【a】 それぞれが見物した道筋をおおよその流れで示しなさい。

【i】 フロイス【続かない箇所はその辺りを○で示す】 【ii】 中書家久【★想定宿泊地。4/28、5/1、5/5】



【b】 フロイスの記述から印象に残った箇所を指摘し (i)、上杉本での位置 (*隻第*扇) を示し (ii)、考えるところを述べなさい (iii)。
